

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22510258

研究課題名（和文） 伝統文化の現代化と地域文化の創造に関する研究

研究課題名（英文） A Study for Modernization of Traditional Culture and Recreation of Local Culture

研究代表者

友常 勉（TOMOTSUNE TSUTOMU）

東京外国語大学・国際日本研究センター・准教授

研究者番号：20513261

研究成果の概要（和文）：本研究は被差別部落の伝統的な門付け芸「阿波木偶箱廻し」とスペイン・バスク地方の被差別民アゴテ出身の彫刻家・サビエル・サンチョテナの調査を主要な対象として、伝統文化を現代化する営みを文化的コモンズの創造と呼び、それが地域社会の活性化に与える影響を考察した。さらに文化的コモンズ創造の可能性を探るために、能楽にみる芸能の現代化の試みや現代映画表現との関係、被差別部落と文化的背景が重なる現代南アジアの被差別民ダリトとスラムにおける文化活動についても調査を行った。

研究成果の概要（英文）：In this study, for the purpose of examining the effects of how the attempts of modernizing traditional culture activate local society, I call these activities as a creation of cultural commons, I investigated activities of traditional strolling musicians and puppet players in Tokushima as an ex-outcast class in Japan, and a Spanish sculpture, Xabier Santxona, born as an outcast group in Basque, Spain and his cultural activities there. In addition, in order to demonstrate a very possibility of recreation of cultural commons, I advanced the study to examine an attempt of modern interpretation of Noh by a Noh player, contemporary Japanese films, and cultural activities by Dalit groups in South Asia, who share historical religious background with outcast groups in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：日本思想史、地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：伝統文化、地域文化、文化資源

1. 研究開始当初の背景

(1) 「阿波木偶箱廻し」について

1980年代までの宮本常一、その後の沖浦和光らの研究のあとを継承する格好となった「阿波木偶箱廻しを復活する会」（現在は名

称を変更して「阿波木偶箱廻しを保存する会」）は、1995年に途絶しかかった門付け芸を実践的に再現することで芸能・門付け研究の様相を一変させた。本研究のスタート地点はこの復活・再現の成果を地域文化に与える

影響という観点から学的に整理し深化させることにあった。

(2) バスクの彫刻家・サビエル・サンチョテナ

スペインの被差別民アゴテについては歴史的に過去のこととして日本では紹介されるのみであり、サンチョテナの作品はもちろん、文化活動については、日本を含めて国際社会ではほとんど知られていなかった。従ってその文化活動とその背景の紹介と評価が必要であった。

(3) 文化創造と受容層の獲得についての研究

被差別民によって担われる伝統文化が、差別や偏見を克服しながら地域社会に受容層を獲得する際の条件やその過程にまで注目し、これを比較文化論的な方法によって考察する研究はこれまでほぼ皆無であった。

これらの条件を前進させることがこの研究を進めるにあたっての問題意識であった。

2. 研究の目的

(1) マイノリティによる地域コミュニティをつなぐ文化的コモンズへの注目

門付芸をおこなった阿波木偶箱廻し芸人は被差別民（「猿牽」「掃除」身分）とバスクのアゴテに共通しているのは、人種の宗教的言語的な差異にもとづくマイノリティではなく、広義の意味でのケガレにかかわる職能民であった。そこで本研究が対象とするふたつの文化運動は、被差別マイノリティがその出自を明らかにしつつ、マジョリティに呼びかけてコミュニティの文化的紐帯を形成するという意味を有する。それはコモンズの形成といいかえてもいい。つまりマイノリティによる地域社会・地域コミュニティをつなぐ文化的コモンズ創造の意義と可能性を分析することが第一の目的であった。

(2) 文化的コモンズ創造の方法論

さらに、これらの文化的コモンズ創造が伝統文化や習俗を通して社会に発信される際には、その表現方法が問われる。この表現方法を分析することが第二の目的であった。研究対象としての文化活動の担い手たちはいずれも現代社会の文化に対する先鋭な問題意識にもとづいており、再現・表現の方法に対しても意識的であった。それは文化的コモンズが有する〈知性〉に光を当てることであった。

3. 研究の方法

(1) 阿波木偶箱廻しについて

門付芸を地域社会はどう受容したか、民間神事が地域社会において有する意味を資料収集と民俗調査にもとづいて明らかにすること。復活した箱廻しの門付に同行すること。さらにかつての・現在の檀那・訪問のアンケート調査を実施すること。

(2) バスクの彫刻家・サビエル・サンチョテナ

サンチョテナの博物館での調査でのインタビュー調査、作品とその背景の調査。これには博物館の利用実態についての調査も含まれる。また被差別民アゴテのかつての生業の調査。そしてこうした文化活動がバスクの文化状況に有している意味を考察すること。

(3) 伝統的芸能文化とその現代化の考察

同時に本研究をより普遍的な文脈に位置づけるために、研究対象とかわりのある能楽研究・宗教思想・宗教芸能、さらに現代文学（石牟礼道子など）・被差別民の文化に注意を払ってきた映画作品（若松孝二など）についても資料を収集し、考察の対象とした。

4. 研究成果

(1) 地域コミュニティをつなぐ文化的コモンズ研究としての成果

①阿波木偶箱廻しについての調査ではそれが現在でもコミュニティ住民の文化的紐帯を形成していることを確認した（その一部は「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会編「四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書——地域社会から見た門付け芸能——」（2013年3月）に反映されている）。さらに②阿波箱廻し芸人の門付範囲の解明についてはそれが関東地方にまで及んでいることを確認した（雑誌論文①）。さらに他の民間神事と比して、より柔軟な創造性を有した芸態を有することが確認された（雑誌論文②、③）。同時に南アジアの被差別民の文化との共通性としてコミュニティ間の紐帯であること、そのために伝統的な表現方法に基本的に忠実であることが条件であることが明らかとなった（学会発表②）。このことは伝統文化の現代化とは必ずしも表現方法の現代化・大衆化を意味しないということである。それはこうした文化が地域社会の信仰体系と不可分に結びついていることに起因している。

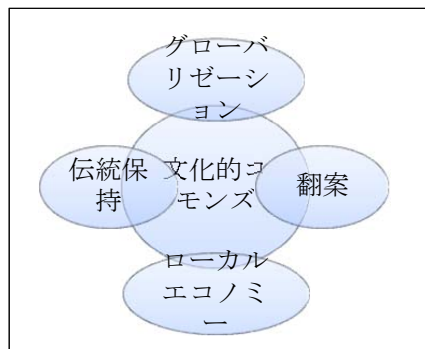
また③サビエル・サンチョテナの調査では主要な作品の年代別分類をおこなった（雑誌論文⑤）。それによってはじめて体系的に作品世界の全貌を明らかにすることができた。さらにインタビューと作品調査を通して地域での学校教育に効果的な影響をもたらしていること、伝統社会の表現を踏まえることで、来たるべき社会をつなぐ予示 pre-figuration としての文化表現の方法論が明らかになった。

(2) 文化的コモンズ研究の可能性

調査の過程で「文化的コモンズ」という研究上の視角が意識されることになった。その表現方法は多様であるが、地域社会にとってより効果的なコモンズとは文化・習俗・信仰体系と深く結びついていることが重要であ

ることが改めて確認された。それは逆にいえば大衆化や商品化とは異なる方向性を維持するほうが望ましいということである。またその表現活動は、グローバリゼーションのもとで周縁化されている地域社会や都市スラムの住民に対して、文化的アイデンティティや表現方法の創造・付与のために効果的であることが明らかになった。それは文化・習俗・信仰体系に結び付いた小さなサークルの積み重ねとつながりを重視するということである。こうして、二つの個別的な文化活動調査研究を通して、より普遍的な概念と方法論として文化的コモンズという枠組みを論じることが可能になったといえよう。それは文化の中心－周縁、現代－歴史的過去をつなぐためのツールとして、今後の地域研究および文化研究において大きな成果が期待できるものと思われる。

なお文化的コモンズの存在の条件を概念図化すれば以下のようなになる。



商品化・大衆化のベクトルで働くグローバリゼーションの力と、文化・習俗・信仰の体系としてのローカル・エコノミーを表す上下の力と、「阿波木偶箱廻し」のように伝統文化を保持する作用と、サンチョテナのようにこれを翻案する意匠。これらの力・意匠を意識化することで文化的コモンズの領域が形成されるのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 友常勉、仮面・芸能・被差別民の詩学 乾武俊『能面以前 その基層への往還』、『部落解放研究』、査読無、197号、2013、pp. 84～89
DOI: ISSN0289-1387
- ② 友常勉、マルスとヴィーナス 石牟礼道子と水俣病闘争、『KAWADE 道の手

帖 石牟礼道子 魂の言葉、いのちの海』、(河出書房新社)、査読無、2013、pp. 155～166

DOI: ISBN978-4-309-74049-2

- ③ 友常勉、バスク、アゴテ、ゲルニカ、フクシマ——サビエル・サンチョテナの作品と思想、東京外国語大学「東京外国語大学論集」、査読無、84号、2012、pp. 241～261

DOI: ISSN0493-4342

- ④ 友常勉、部落史研究における身分・階級・コモンズ、『部落解放研究』、査読無、194号、2012、pp. 24～33

DOI: ISSN0289-1387

- ⑤ 友常勉、労働・縁起・構想力——宮本常一、中上健次、サビエル・サンチョテナ、『現代思想』、査読無、39巻15号、2011、pp. 190～203

DOI: ISBN978-4-7917-1235-9

- ⑥ 友常勉、門付けの精神史——阿波の木偶箱廻しと出雲の大黒人の詞章・楽曲から東京外国語大学「東京外国語大学論集」、査読無、82号、2011、pp. 279～297

DOI: ISSN0493-4342

- ⑦ 友常勉、上州にやってきた阿波木偶箱廻し、東日本部落解放研究所『明日を拓く』、査読無、82号、2010、pp. 41～52

DOI: ISSN1340-9387

[学会発表] (計3件)

- ① 友常勉、乾武俊著『黒い翁』かく読めり、2013年3月3日、山本ひろ子・成城寺子屋「仮面フォーラム」(於・和歌山県和歌山市和歌浦)
- ② Tomotsune, Tsutomu, On Modern Buraku Issue, at Department of Women's Studies, Pune University, 2012年11月21日
- ③ Tomotsune, Tsutomu, "Examining the Invention of Folklore Cultures and

Beliefs through Minorities' Acts in
the Globalization Periods” 第106回
アメリカ社会学会年次大会（ラスベガス）、
2011、セッション306 Racial and Ethnic
Minorities

〔図書〕（計1件）

- ① 友常勉、河出書房新社、『戦後部落解放運
動史 永続革命の行方』、2012、224

6. 研究組織

(1) 研究代表者

友常 勉 (TOMOTSUNE TSUTOMU)
東京外国語大学・国際日本研究センター・
准教授
研究者番号：20513261